

様式 1 ガラスびんにおける 3 R 推進のための第二次自主行動計画

ガラスびんリサイクル促進協議会の概要

■ 設立年月日

平成 8 年 1 1 月 1 9 日

(前身のガラスびんリサイクリング推進連合は昭和 5 9 年 1 1 月設立)

■ 設立の目的

本会は、ガラスびんの 3 R (リデュース、リユース、リサイクル) を一層効率的に推進するために必要な事業を広範に行うことにより、資源循環型社会の構築に寄与することを目的とする。併せて、公益財団法人 日本容器包装リサイクル協会と連携して効果的な事業を行う。

■ 名 称

ガラスびんリサイクル促進協議会

Glass Bottle Recycling Promoter Association

■ 事 務 所

〒169-0073 東京都新宿区百人町 3-2 1-1 6 日本ガラス工業センター 1 階

TEL : 03-6279-2577 FAX : 03-3360-0377

Home Page : <http://www.glass-recycle-as.gr.jp>

■ 事業内容

- (1) ガラスびんの 3 R (リデュース、リユース、リサイクル) についての普及・啓発
- (2) ガラスびんの軽量化に関する調査・研究
- (3) リターナブルびんの普及拡大のための調査・研究
- (4) カレット利用率の向上及びカレットの品質向上のための調査・研究
- (5) カレットの他用途利用に関する調査・研究
- (6) 行政機関・関連業界等へのガラスびんリサイクル促進のための要請及び建議
- (7) その他本会の目的を達成するために必要な事業

■ 会 員

[正 会 員]

- (1) ガラスびんの製造事業を行う者もしくはそれらの団体
- (2) ガラスびんを容器とする飲料、食品、医薬品等の製造又は販売事業を行う者もしくはそれらの団体
- (3) カレット又はガラスびんの回収、処理事業を行う者もしくはそれらの団体
- (4) 回収されたガラスびんを利用してガラスびん以外の製品を製造する者もしくはそれらの団体

[賛 助 会 員]

- (1) ガラスびんに関連する事業を行う者
- (2) ガラスびんを容器とする飲料、食品、医薬品等の輸入、販売を行う者
- (3) 回収されたガラスびんを利用してガラスびん以外の製品を製造する者
- (4) 本会の目的に賛同する法人もしくは団体

■ 会 員 数

平成 23 年 3 月現在

会 員 構 成	会 員 数
正 会 員	
ガラスびんメーカー	14
ボトラー	47
びん商・カレット商	22
計	83
賛 助 会 員	41
合 計	124

■ 会長・副会長

会 長 山 村 幸 治 日本山村硝子株式会社 代表取締役社長
副会長 堤 俊 彦 日本耐酸壘工業株式会社 代表取締役社長
事務局長 幸 智 道

1. ガラスびんに関する第一次自主行動計画の推進状況と課題

1.1 第一次自主行動計画の推進状況

(1) リデュース

① 一本当たりの重量変化

2009年実績として、基準年（2004年）対比で1本当たり1.8%の軽量化がはかられ、目標を前倒しで達成することが出来た。

1本当たりの単純平均重量は基準年（2004年）の192.3gに対し、2009年実績は182.3gと5.2%（10.0g/本）の軽量化がはかられたが、これにはびん容量構成比の変化が含まれているため、その要素を除いたネットの軽量化率は1.8%（3.5g/本）となっている。【表1】

残りの3.4%（6.5g/本）はびん容量構成比の変化によるものである。

なお、基準年（2004年）対比での軽量化による資源節約量は、2006年～2009年（4年間）で、71,095トン（100mlドリンク剤びん換算 5億9246万本）となっている。

【表1】 1本当たりの平均重量推移

	2004年 (基準年)	2006年	2007年	2008年	2009年
本数（千本）	7,262,950	7,158,306	7,049,797	6,846,912	6,653,700
重量（トン）	1,396,582	1,343,925	1,313,830	1,266,242	1,213,075
単純平均重量（g/本）	192.3	187.7	186.4	184.9	182.3
ネット軽量化率指標 (加重平均)	100.0	99.0	98.7	98.6	98.2
軽量化による 資源節約量（トン）	—	13,575	17,305	17,979	22,236

② 軽量化実績

2006年から2009年までに軽量化された主な品目は、11品種101品目となっている。【表2】

なお、軽量化実績の捉え方は、前年と同容量で軽量化された品目について限定しており、容量変更が伴う場合や、新製品の軽量びんは対象外としている。

【表2】 2006年から2009年までに軽量化された品目

品 種	のべ品目数
小びんドリンク	小びんドリンク（2品目）
葉びん	細口びん（2品目）、広口びん（1品目）
食料品びん	コーヒー（17品目）、ジャム（6品目）、粉末クリーム（2品目） 食用油（1品目）
調味料びん	たれ（9品目）、酢（7品目）、ソース（2品目）、新みりん（2品目） つゆ（6品目）、調味料（9品目）、ケッチャップ（1品目）
牛乳びん	牛乳（1品目）
清酒びん	清酒中小びん（5品目）
ビールびん	ビール（1品目）
ウイスキーびん	ウイスキー（4品目）
焼酎びん	焼酎（11品目）
その他洋雑酒びん	ワイン（9品目）
飲料びん	飲料ドリンク（1品目）、飲料・サイダー（2品目）

(2) リユース

- ・リユース(リターナブル)びんの2009年使用量実績は133万トン(基準年比72.7%)となった。【表3】

経年的な減少傾向に歯止めがかからず、現在では家庭用宅配と業務用という一部限定市場での存続という状態であり、びんのリターナブル比率(リターナブルびん使用量÷(国内ワンウェイびん流通量+リターナブルびん使用量))は2009年で48.7%と50.0%を初めて割る結果となった。

【表3】リユース(リターナブル)びんの使用量実績(単位:万トン)

	2004年 (基準年)	2006年	2007年	2008年	2009年	2009年実績 基準年比
リターナブルびん使用量	183	159	153	144	133	72.7%
国内ワンウェイびん量 (輸出入調整後)	158	146	141	139	140	88.6%
リターナブル比率~%	53.7	52.1	52.0	50.9	48.7	—

- ・経済産業省「地域省エネ型リユース促進モデル事業」環境省「リターナブルびん利用促進事業」などモデル事業に積極的に参画し、リターナブルびんのPRや効率的な回収方法について調査・研究をおこなった。
- ・量販店市場におけるリターナブルびんの取扱いや空びんの回収体制の可能性について研究をおこなった。
- ・一般家庭市場での「リターナブルびん回収拠点マップ作り」に関して、全国びん商連合会と協議のうえ、段階的な地域拡大に取り組んでいる。
- ・リターナブルびんポータルサイトを2009年2月より立上げ、活動の「見える化」に取り組み、情報発信に努めている。
- ・地域で展開されるリターナブルびん促進活動のサポートを地域幹事(NPO団体・びん商)と連携をはかり、継続的な取り組みと活動定着を目指している。

(3) リサイクル

- ・当初目標として設定した「カレット利用率91%」の実績については、ガラス容器製造業における再生材利用促進の向上に努め、2009年は97.5%となった。【表4】

(カレット利用率とは、ガラスびん生産量に占めるカレット(再生材)の使用比率)

【表4】カレット利用率の推移

	2004年 (基準年)	2006年	2007年	2008年	2009年
ガラスびん生産量(千トン) ①	1,554	1,472	1,433	1,386	1,330
カレット利用量(千トン)②	1,409	1,382	1,368	1,343	1,297
カレット利用率(%)②÷①	90.7	93.9	95.5	96.9	97.5

「ガラスびん生産量」: 経済産業省「窯業・建材統計」

「カレット使用量」: 日本ガラスびん協会資料及びガラスびんフォーラム資料

・2009年からは、「リサイクル率（回収・再資源化率）」の指標を追加し、目標を70%と設定し、取組みを開始した。

「リサイクル率」は毎年向上し、2009年では68.0%となり、基準年（2004年）対比では、+8.7%となっている。【表5】これは、びん分別収集の強化による成果であるが、直近2010年では、カレット回収量はほぼ頭打ちとなっており、空きびん収集段階で細かく割れたガラスびん残渣の資源化が課題となっている。

【表5】リサイクル率の推移

	2004年 (基準年)	2006年	2007年	2008年	2009年
リサイクル率(回収・再資源化率)	59.3%	60.4%	63.9%	65.0%	68.0%

・リサイクル容易性向上については、再商品化市場の開発拡大を目的とした「カレットを90%以上使用するエコロジーボトル」の普及に努め、2009年出荷量は1億8100万本と基準年（2004年）対比+11.9%と拡大している

・「化粧品びん」の分別収集促進活動を、日本容器包装リサイクル協会と連携し全国の自治体にて実行した。（2010年3月調査結果：41.3%の自治体が化粧品びん分別収集を実施・計画中）

(4) 自主設計ガイドライン／容器利用事業者（中身団体）との連携

・アルミ箔ラベルを使用しない等、ガラスびんの3Rを推進するための「自主設計ガイドライン」（ガラスびんの組成、質量、ラベル、キャップ等に関する事項）を2007年3月に最終決定し、製造・利用事業者への周知・徹底に努めた。

・容器利用事業者（中身団体）に対する「ガラスびん3R進捗報告会」を毎年定期的に行い、ガラスびんの3R取組進捗と課題の共有化をおこなった。

(5) 広報活動

・ガラスびんの3R総合パンフレットとして「ガラスびんBOOK」を制作・配布し、容器排出方法については、「ガラスびんの流れ（リユースとリサイクル）」ポスターを制作・配布し広報に努めた。

・ホームページの抜本的見直しとキッズページの刷新を図り、情報発信力強化をはかった。

1.2 次期5ヶ年に向けた課題・方針

資源循環促進 ならびに 環境負荷低減に向けたガラスびんの3R（リデュース・リユース・リサイクル）の取組みについて、第一次自主行動計画の成果を基に、消費者団体や自治体との相互連携を図り、さらに積極的に推進していく。

容器の軽量化をさらに進めるとともに、未回収びんの回収強化によるカレット回収量の増量と資源循環の強化をはかり、バージン原料（珪砂・石灰石・ソーダ灰等）の節約に努める。

ガラスびんの特徴である、リユース（リターナブル）びん商品の減少とリユース（リターナブル）びん容器の社会的な認知率低下が顕著になっており、ガラスびんリユースシステムの存続に向けた取組みについて、国・自治体・事業者・消費者等、すべての関係者が連携の上、推進していく必要がある。

2. ガラスびんに関する第二次自主行動計画

2.1 3Rの推進目標

(1) リデュース

軽量化余地のある容器についてのさらなる軽量化（薄肉化）を推進し、1本当たりの平均重量を2004年対比で2015年までに2.8%の軽量化を目指す。

(2) リユース

ガラスびんのリユースシステム存続に向けて、市場別に課題を明確化の上、関係主体と連携のもと、リユース（リターナブル）商品のPRや利用実証事業に取り組む。

(3) リサイクル

家庭・事業系から回収されずに廃棄される「未回収びん」の資源化及び市町村の回収で細かく割れて色分けできず資源化されずに埋立てに回る「ガラスびん残渣」の減量化によるカレット回収量の増量をはかり、資源循環の促進をはかる。

2015年度までにリサイクル率70%以上を目指すと共に、ガラス容器製造業における再生材利用促進の指標となるカレット利用率について2015年までに97%を目指す。

2.2 主体間の連携に資する取り組み

(1) 広報・啓発活動

- ・ガラスびんの「3R」の取り組みや「びん to びん」リサイクルの有効性について、消費者への積極的な広報活動をおこなう。
- ・ポスターやリーフレットの作成、インターネットの活用、展示会への参加など様々な媒体により、消費者視点でのPR・啓発に努める。

(2) 調査・研究活動

- ・リユース（リターナブル）びんに関する消費者の意識・行動調査や、新たな宅配システム等の研究をおこなう。